

と三、第一編は上古、婦女文學第二編は兩漢、魏晉南北朝、唐五代を網羅し、第三編は宋遼と元明を収む。(定價 一元四角、中華書局發行) (以上那波)

●Herbert B. Workman: the Evolution of the Monastic Ideal (Londn, 1917)

本書は遁世思想の發達を説きて初期基督教の時代より托鉢僧團成立期に及べるものなり。著者は先づモナスチズムの思想が初期基督教界に發生し來る外的並に內的因由を説き、其一般的特質を擧げ、ベネザクト派以前の原始的時代に於ける僧院制度より漸次この思想主義が發展し行ける過程を討ね、聖ベネザクト及聖フランシスの出現を二個の中心點とする該期間の推移を述べて托鉢僧團の性質に及び、最後に遁世主義の使命を論じて編を結べり。即ち本書は専らモナスチズムの興隆期を取扱へるものにして、この方面の研究に對して造詣頗る深き著者が、この種の著述に往々免れ難き哲學的思索に耽せずして飽遠史的考察の態度を失はず着實なる勞作を公にしたるは多とすべきものなるべし。其所論中には間々首肯し難き點あるべく、殊に第一章の總括的論說に對しては異論叢からざるべしと雖も、兎に角從來公刊せられたる思想上よりせる僧院研究の述作中に於ては嶄然頭角を抜けるものならん。

●Carlton J. Hayes: A Political and Social History of Modern Europe. (2vols, New York, 1916)

本書はロマンヤ Hayes 氏が彼地に於けるカンツチ教科用として纂したるものにして、第一卷は一五〇〇—一八一五年第二卷は一八一五—一九一五年の時期を取扱ひ居れり。著者は其目的に適ふやうに近代四世紀間に於ける歐洲の政治及社會的發展の經路を極めて手際よく編述し居り、殊に最近世の部分に力を注ぎ其分量も全篇の半ばを占め居り、出來榮えも亦他の部分よりも優り居るが如し。第一卷中に纏められたる前代三世紀間の記事はこれに對比して確に遜色あるべく、間々精到を欠ける箇所聽しとせず。而も大体に於て巧妙なる其編述方法は篇中挿入の參考地圖各章末に附せる參考書目及精密なる索引と相俟つて歐洲近世史學修者の良好なる參考書として推奨すべきものなり。(以上植村)

●海峽殖民地概覽 外務省通商局編

海峽殖民地(馬來聯邦を含む)につきて、其政治、人種、人口、産業、宗教、交通等を述べたり、統計的の處多けれども此地方のことと記したる邦文のものとしては、唯一の參考書たるべし、就中人種宗教、經濟等の記事最も見るべし。(價二、八〇 啓成社發行)